

さらなる価値創造に向けて
ビックカメラグループ中期経営計画
- Vision 2029 -

財務戦略

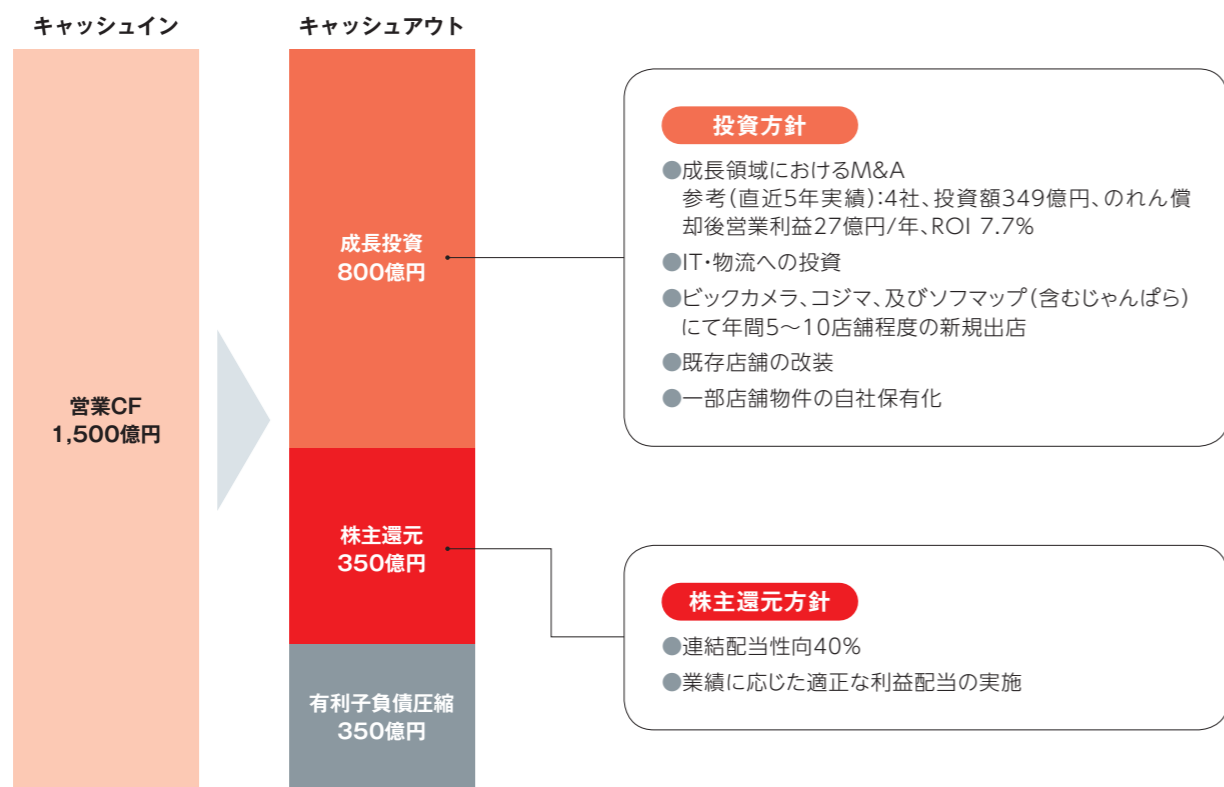
中期経営計画の目標達成に向け、
持続的な成長と企業価値の
向上を目指します。

執行役員 経営管理部門管掌
兼経営企画部長兼新規事業開発室長 **佐藤 佑太**



中期経営計画（2025年8月期～2029年8月期）において、期間中の5か年累計で営業キャッシュフロー1,500億円を創出し、このキャッシュを成長投資800億円、株主還元350億円、有利子負債の圧縮350億円に配分する計画です。

キャピタルアロケーション (5か年累計:2025年8月期～2029年8月期)



戦略的投資の推進について

成長投資においては、競争優位性を高めるため、M&AやIT・物流への投資を積極的に進めます。過去5年間で実施した4社のM&Aにおいては、総投資額349億円に対し、のれん償却後営業利益27億円(ROI 7.7%)を創出しました。今後も成長領域における投資を重視し、同様の成功事例を増やしていきます。また、ビックカメラ、コジマ、ソフマップ(含むじゃんぱら)において、年間5～10店舗の新規出店を計画すると共に、既存店舗の改装や一部店舗物件の自社保有化も検討していきます。

株主還元について

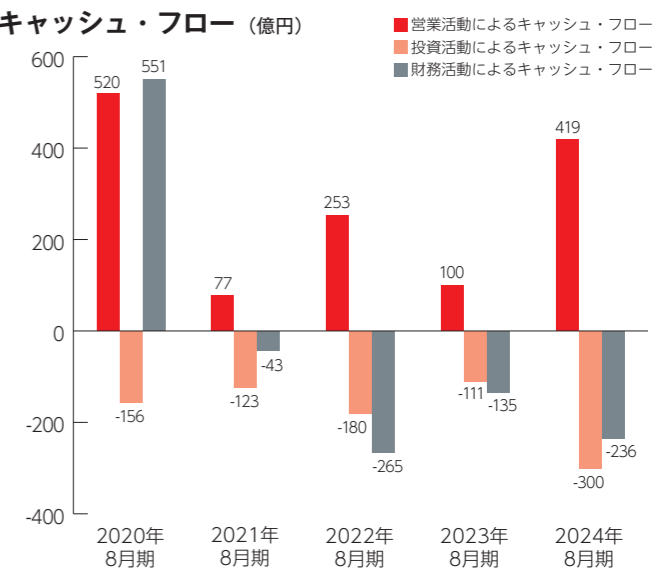
当社グループは、業績に応じた適正な利益配当の実施をその基本方針としています。この基本方針のもと、連結配当性向40%を目指しています。当事業年度の期末配当は、1株当たり24円といたしました。この結果、年間では過去最高の33円となっています。なお、2025年8月期の年間配当金は3円増配し36円を予定しています。

資本効率の最適化について

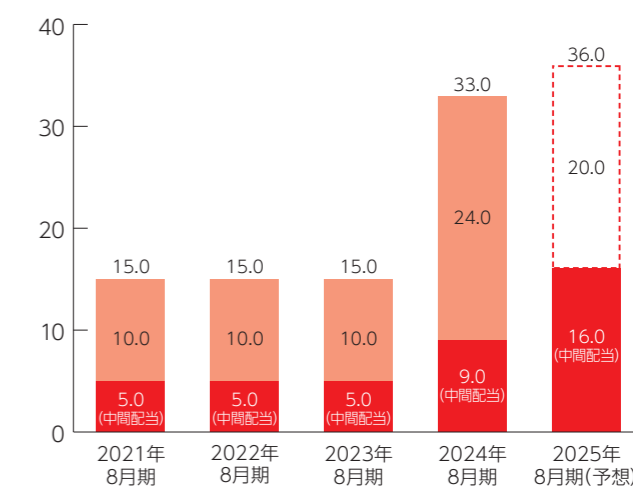
中期経営計画で掲げる戦略の遂行により利益成長を目指すことに加え、持続可能な成長を支える健全な財務基盤の確立に努めます。具体的には、資本効率の向上や財務リスクの適切な管理を推進することにより、株主資本の有効活用を図り、ROE10.5%を目指していきます。

なお、当社グループの資本コストはWACC(加重平均資本コスト)とし、2024年8月期のROE(9.6%)はWACC(5.4%)を上回る水準となっています。

キャッシュ・フロー (億円)



配当金 (円)



自己資本利益率 (%)

